蔵数東野屋敷遺跡

福岡県筑後市大字蔵数所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第 93 集

2010 年（平成 22 年）
筑後市教育委員会

序

本書は、平成21年度に筑後市教育委員会が発掘調査を行った蔵数東野屋敷遺跡第3次調査の記録です。

今回の調査では、古墳時代の住居が確認されました。また、当市では初めて「馬形土製品」が出土するなど、古代の人々の生活や祈りの一端に触れる調査となりました。この成果が今後の調査研究に活かされていくことを期待します。また、本書が地域における文化財保護への理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました関係者の方々に心より御礼申し上げます。

平成22年3月

筑後市教育委員会
教育長　城戸一男

例言

1. 本書は平成21年度に筑後市教育委員会が行った蔵数東野屋敷遺跡第3次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第Ⅰ章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図は吉村由美子が作成し、遺物実測は整理委託事業として(株)埋蔵文化財サポートシステムが行った。また、図版浄書は横井理絵が行った。
4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は吉村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は国土調査法第Ⅱ座標系（日本測地系）を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2002に準拠している）。

SI - 竪穴住居　SK - 土坑　SP - ピット　SX - 不明遺構

7. 本書の編集、執筆は吉村が行った。

目次

Ⅰ. 調査経過と組織・・1
Ⅱ. 位置と環境・・2
Ⅲ. 調査成果・・・4
写真図版

Ⅰ. 調査経過と組織

本調査地点は筑後市大字蔵数字東野屋敷に所在する。宅地造成に伴い、平成 21 年 4 月に開発原因者であるコガホーム (株) から試掘・確認調査依頼が筑後市教育委員会に提出され、担当課である社会教育課が同年 5 月に現地での試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺構が確認され、開発による埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。宅地部分については盛土による保存調整が可能であるが、恒久構築物である道路部分について本調査を行うことで合意した。平成 21 年 7 月 27 日から同年 8 月 28 日まで現地での本調査を行い、整理報告書作成作業を平成 22 年 3 月に完了した。

発掘調査に関わる調査組織は以下のとおりである。

1）平成 21 年度

総括	教育長	城戸　一男
	協働推進部長	田中　僚一
庶務	社会教育課長	山口　辰樹
	社会教育係長	田中　純彦
	社会教育係	小林　勇作
	（文化財担当職員）	上村　英士（事前審査・調整担当）
		中島　征弘
		吉村由美子（嘱託：本調査・報告書担当）

2）発掘調査参加者

加々良一美・加藤　礼子・蒲池　京子・田島　和弘・田島　英樹・橋本　高登・原　秋子
堀田　武利・三瀬美樹子・満川香代子・渡邉　泰子

3）整理作業参加者

野口　晴香・野間口靖子・横井　理絵

調査及び整理作業に際しては次の方々にご指導、ご教示を賜った。記して心より感謝申し上げます。（順不同、敬称略）

齋部麻矢（福岡県教育委員会）、大塚恵治（八女市教育委員会）

Ⅱ. 位置と環境

１．地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、潅漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域には果樹園や茶畑、東部には米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

今回報告する蔵数東野屋敷遺跡は筑後市の北部、八女丘陵裾部の標高13m程の地点に立地する。

２．歴史的環境

蔵数地区は八女丘陵の西端部にあたり、特に先史時代の遺跡が集中する。旧石器時代の遺跡としては蔵数坂口遺跡【註1】があり、後期旧石器時代と考えられる黒曜石製の角錐状石器が出土している。

縄文時代に属する遺構・遺物は少なく、蔵数森ノ木遺跡【註2】で落し穴状遺構が確認されているのみであるが、続く弥生時代になると市内でも有数の大集落が展開する。蔵数立野遺跡【註3】では弥生時代前期末から中期初頭にかけての住居跡が確認された。蔵数東野屋敷遺跡【註4】では弥生時代中期の甕棺墓・土壙墓計８基が検出されている。蔵数森ノ木遺跡では中期以降の竪穴住居や掘立柱建物が数多く検出され、古墳時代まで続く集落遺跡が形成される。また、蔵数大谷遺跡【註5】では弥生時代後期に属する小型仿製鏡が出土している。

古墳時代には、上述の蔵数森ノ木遺跡を中心に、丘陵裾部に集落が営まれる。一方、八女丘陵上には八女古墳群が築かれ、付近では５世紀中頃と考えられる瑞王寺古墳【註6】が造営される。現在は消滅しているが、主な遺物として珠文鏡、鉄製馬具類、形象埴輪などがある。また、蔵数森ノ木遺跡では子持勾玉なども出土しており、集落の発展過程や周辺地域との交流のあり方を知る上でも貴重な資料となっている。

【註】

1. 永見秀徳「蔵数坂口遺跡（第１次調査）」『筑後市内遺跡群Ⅵ』筑後市文化財調査報告書第65集　筑後市教育委員会 2005

2. 佐々木隆彦『蔵数遺跡群（森ノ木遺跡）』筑後市文化財調査報告書第６集　筑後市教育委員会 1990

3. 上村英士『蔵数立野遺跡』筑後市文化財調査報告書第81集　筑後市教育委員会 2007

4. 川述昭人「蔵数東野屋敷遺跡の調査」『前津中の玉遺跡』筑後市文化財調査報告書第４集　筑後市教育委員会 1987

5. 上村英士『蔵数大谷遺跡』筑後市文化財調査報告書第82集　筑後市教育委員会 2007

6. 川述昭人『瑞王寺古墳』筑後市文化財調査報告書第３集　筑後市教育委員会 1984

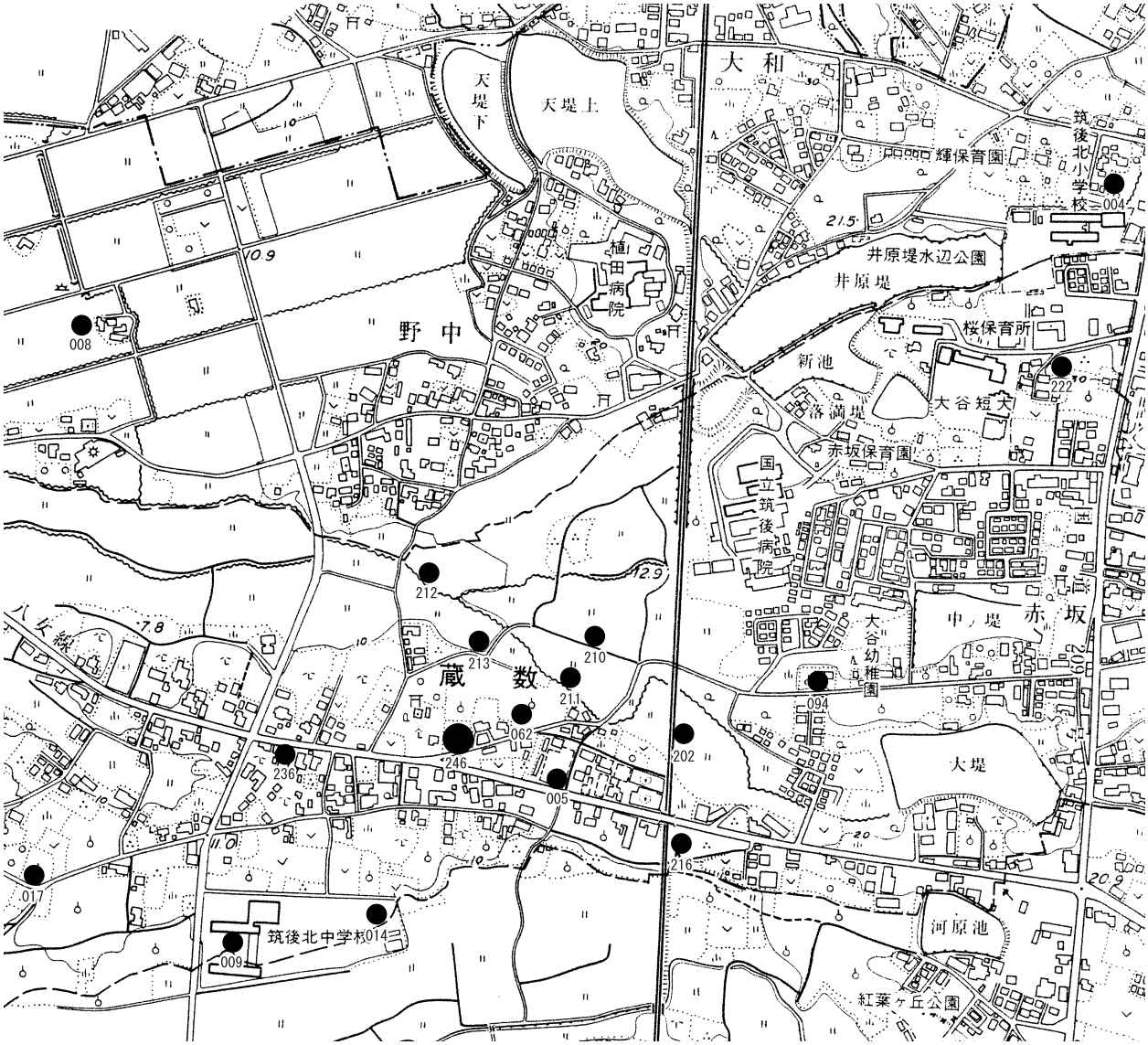


Fig.1　周辺遺跡分布図（1/10,000）

調査番号	遺跡名	調査番号	遺跡名
004	瑞王寺古墳	210	蔵数島ノ本遺跡
005	蔵数東野屋敷遺跡（第1次調査）	211	蔵数保古手遺跡（第2次調査）
008	田佛遺跡	212	蔵数三郎丸遺跡
009	蔵数森ノ木遺跡（第1次調査）	213	蔵数長畝町遺跡
014	蔵数森ノ木遺跡（第2次調査）	216	蔵数立野遺跡
017	蔵数坂口遺跡（第1次調査）	222	蔵数大谷遺跡
062	蔵数東野屋敷遺跡（第2次調査）	236	蔵数西野屋敷遺跡
094	蔵数長原山遺跡	**246**	**蔵数東野屋敷遺跡（第3次調査）**
202	蔵数保古手遺跡（第1次調査）	※遺跡番号は、当市採用の調査番号を掲載	

Ⅲ . 調査成果

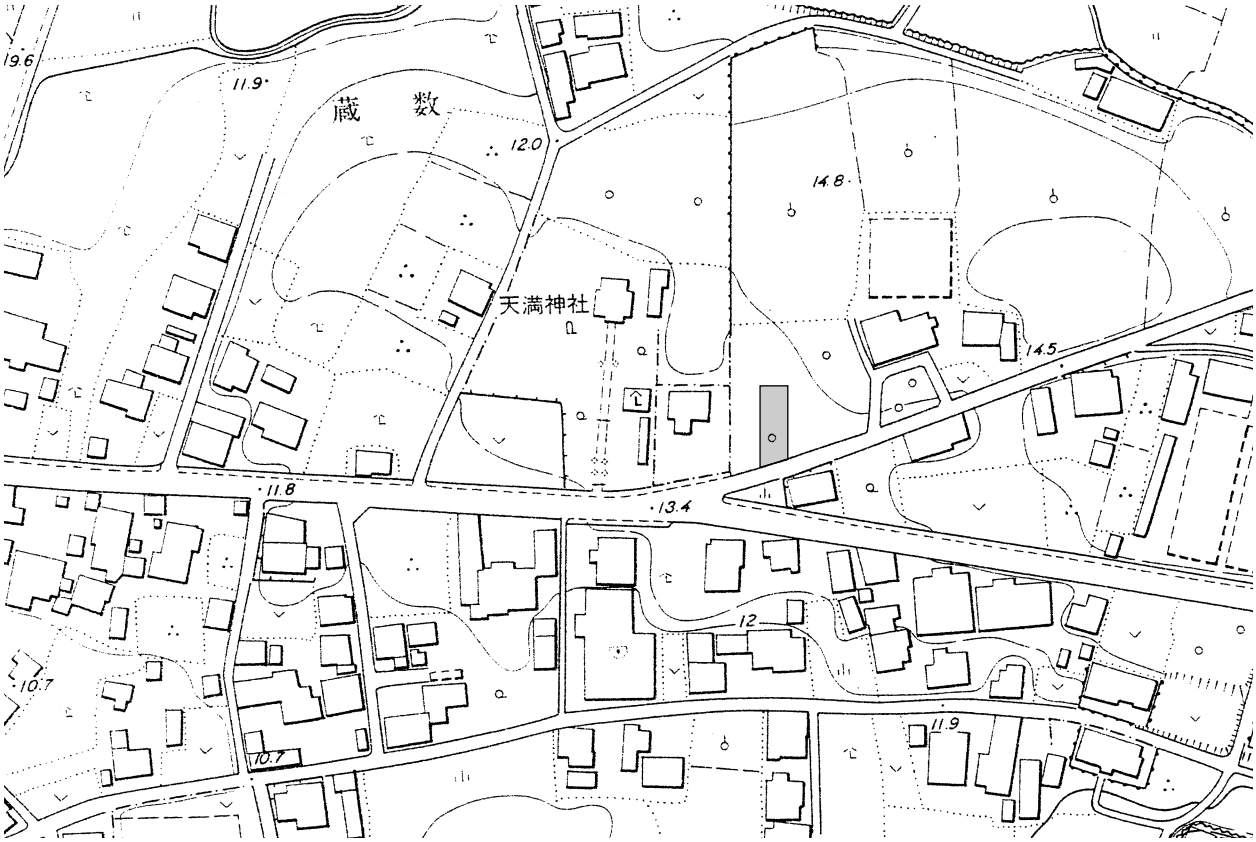


Fig.2　調査地点位置図（1/2500）

（1）　はじめに

計画道路部分にあたる 200 ㎡に調査区を設定した。調査は吉村が担当し、平成 21 年 7 月 27 日より開始した。遺構の掘削は表土から遺構面までを (有) 徳光建設に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行い、平成 21 年 8 月 28 日に調査を終了した。

（2）　検出遺構

竪穴住居

3SI10（Fig.3、Pla.3)

調査区南東隅で検出した。住居は深さ 0.05m ～ 0.10m と僅かに痕跡が残る程度で、大半は削平により消滅している。さらに数箇所は現代の撹乱を受けており、住居西側では床面が検出できなかった。半分程度が調査区外であるため全体像は不明であるが、平面プランは隅丸方形状を呈すると思われる。住居西壁の南北間は 5.9m、東西の検出最大長は 4.0m を測る。検出面直下は床面で、暗灰茶色土を基調とする埋土である。床埋土中からは土師器（坏・甕・ミニチュア・片）が出土している。西壁中央には竈が付設される。竈は後世の削平により大部分が破壊されているが、赤褐色土の被熱部分により 0.08m 程度の基部の痕跡が確認できた。両袖の間から幅 0.5m、深さ 0.05m 程の浅い楕円形の土坑（D1）が検出された。土坑内部には完形の坏が埋納され、坏の上面は白色粘土で覆われていた。土坑は火床を切り込むように形成されている。

3SI20（Fig.4、Pla.4)

3SI10 の西側で検出した。東西 3.9m、南北 4.0m を測り、平面プランは正方形に近い。床面までは 0.25m 程の残存で、暗灰褐色土を基調とする埋土である。埋土中からは土師器（坏・甕・壺・把手・片）が出土している。東壁中央では歪な楕円形を呈する屋内土坑が検出された。屋内土坑は幅 0.9m、深さ 0.2m を測り、埋土は暗灰褐色土の単一土層である。埋土中からは土師器（坏・高坏・甕・片）、土製品（土鈴）が出土している。また、屋内土坑の南側では、幅 0.4m、厚さ 0.05m 程の白色粘土を検出した。粘土の

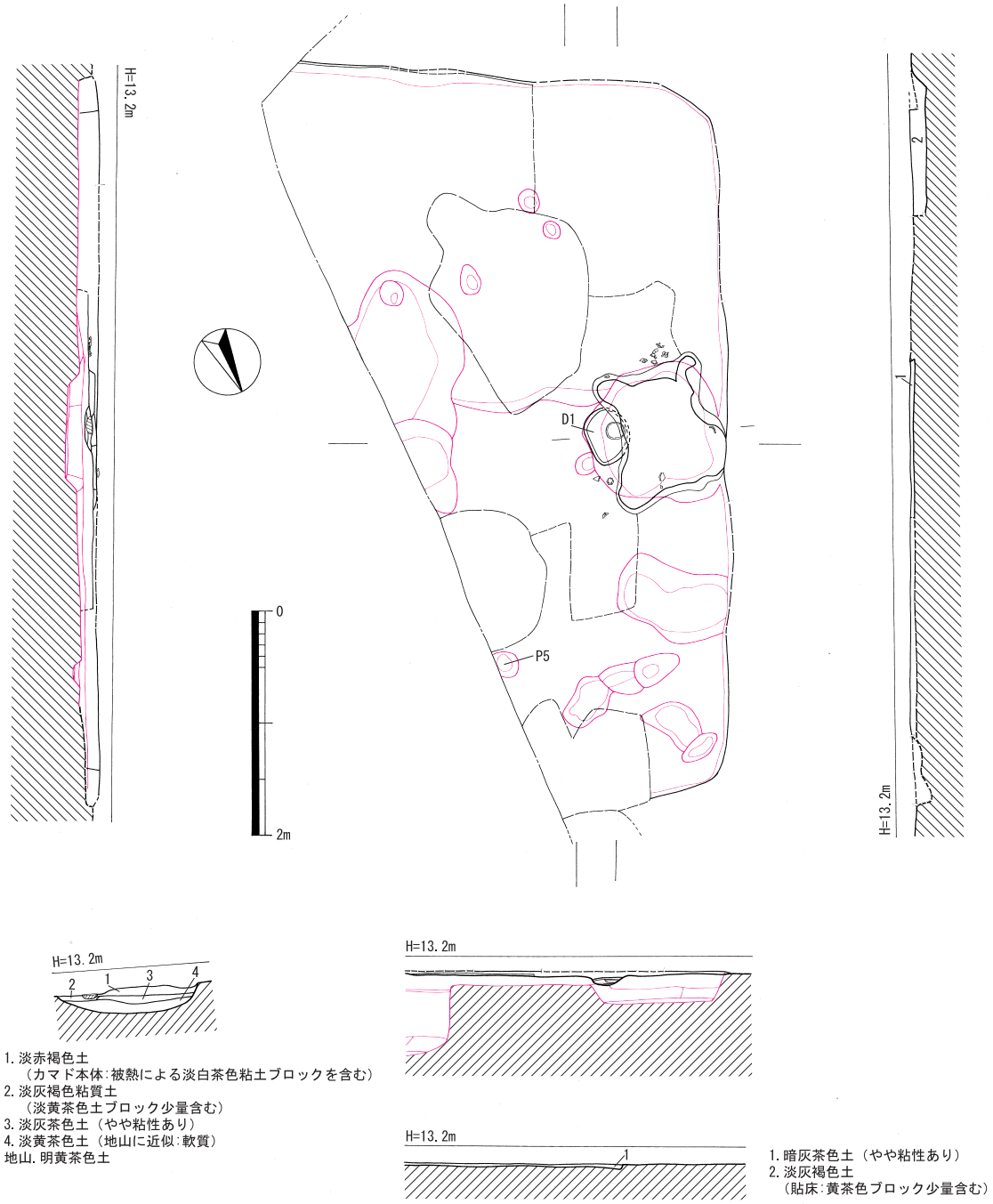


Fig.3　3SI10 遺構実測図（1/60）

内部からは土師器（坏・高坏）が出土している。床面では、四辺とほぼ平行に 4 基の支柱穴を確認したほか、三方の隅には床面からの深さ 0.15m 程の顕著な掘方が認められた。炉や竈は検出されなかった。

土坑

3SK01（Fig.5、Pla.5・6）

調査区北東で検出した。遺構の東側は調査区外となる。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は検出された範囲で長軸 3.4m、短軸 2.0 m、深さは 0.6m を測る。西側には幅 0.5m 程のテラス状の平坦面をもつ。テラス付近の上部までは淡灰褐色土、底部付近は淡黒褐色土を基調とする埋土で、Ⅲ層とした黒褐色土中で特に多くの遺物を認めている。底面からは、ほぼ完形の土師器（坏・高坏・甕・壺・鉢）、土製品（支脚）が出土している。遺構の南側には検出長 1.5m、幅 1.0m の窪みがあり、完形の土師器甕が南側の壁面に立て掛けられたような状態で出土した。

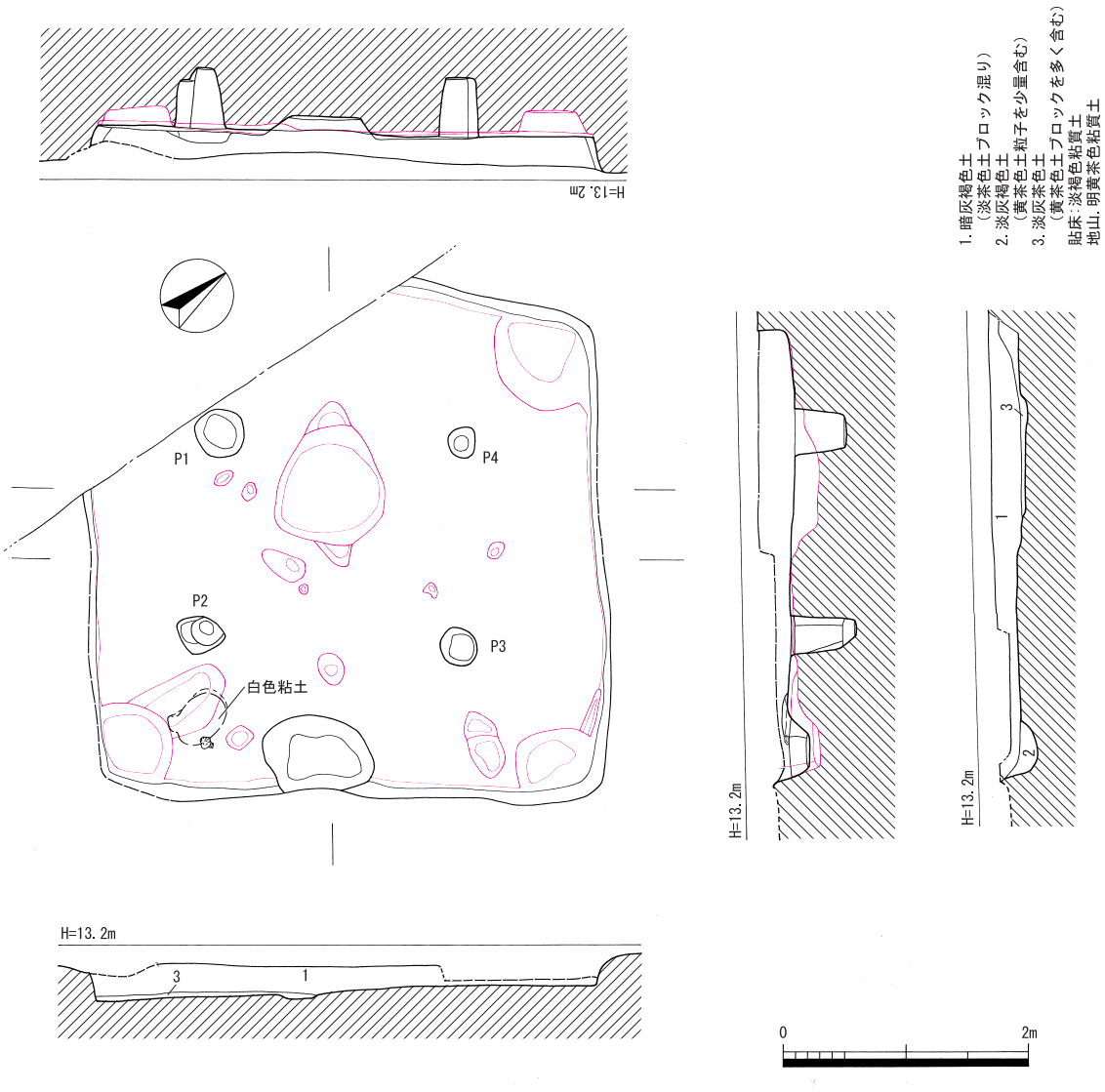


Fig.4　3SI20 遺構実測図（1/60）

3SK02（Fig.10）

3SI20 の北東で検出した。上面の直径は 0.6m、深さは 0.1m 程の浅い遺構である。土師器片が出土している。

ピット

3SP03（Fig.10）

3SK01 の北側で検出した。直径 0.4m、深さ 0.15m を測る。土師器片が出土している。

不明遺構

3SX04（Fig.10）

調査区北東隅で検出した。遺構の東側は調査区外となるため全容は不明であるが、上面は円形を呈すると思われる。幅 0.4m、深さ 0.3m 程の溝状の窪みと、高さ 0.1m のテラス状部分をもつ。土師器片、黒曜石片が出土している。

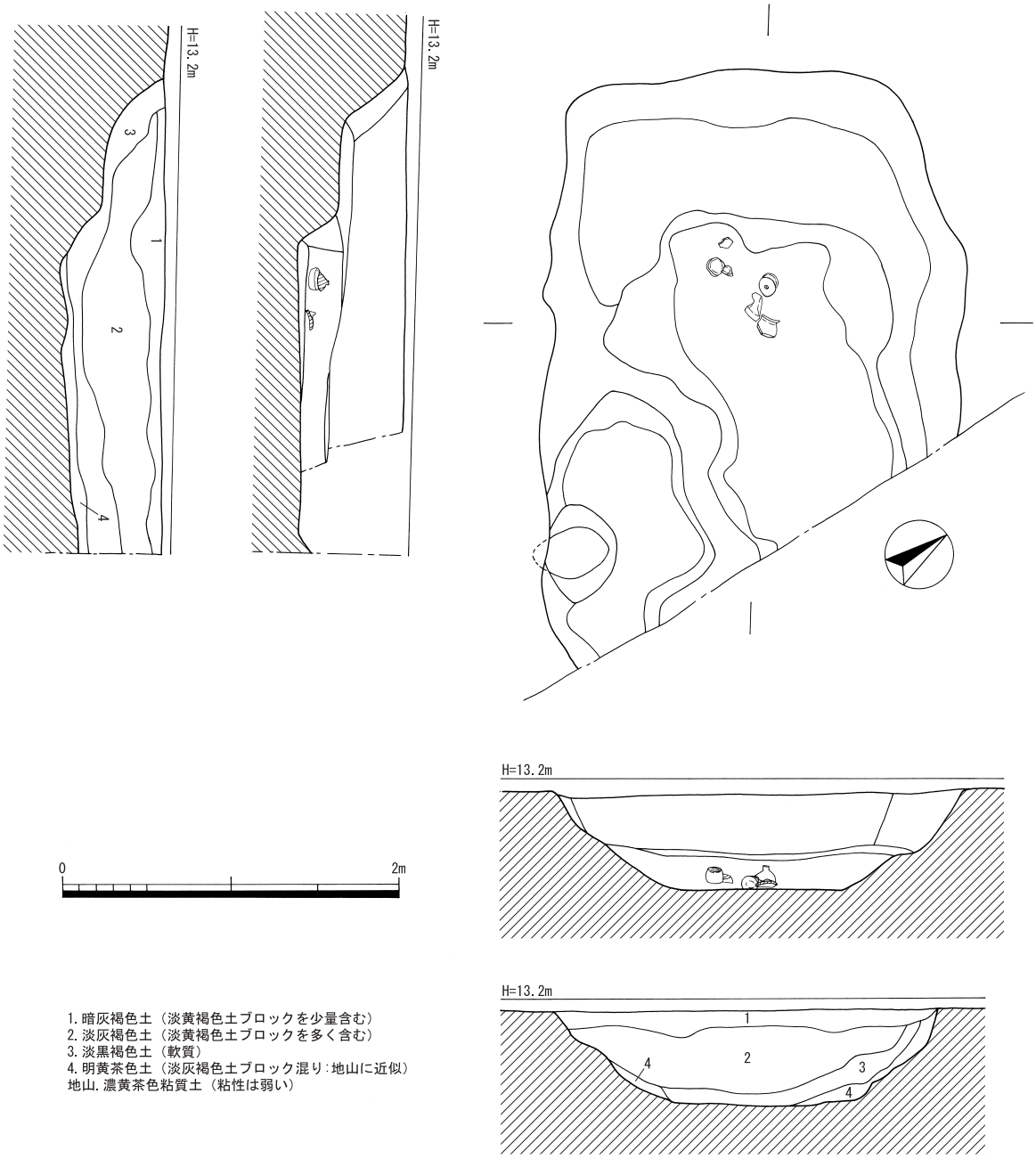


Fig.5　3SK01 遺構実測図（1/40）

（3）　出土遺物

竪穴住居

3SI10（Fig.6、Pla.7）

土師器

甕（1）　口径 15.0 ㎝を復元する。外面は斜方向のハケ目、内面はヘラケズリを施す。口辺部はヨコナデ。焼成良好で、淡灰橙色を呈する。

壺（2）　短頸の小型丸底壺で、口径 8.8 ㎝、器高 6.7 ㎝を測る。胴部外面は手持ちヘラケズリ後ナデで仕上げ、内面には密な指頭痕が看取される。色調は外面明赤橙色、内面明赤褐色を呈する。

3SI10（床面）（Fig.6、Pla.7）

土師器

坏（3）　口径 14.0 ㎝を復元する破片である。口縁部は僅かに内湾し、体部外面は手持ちヘラケズリを

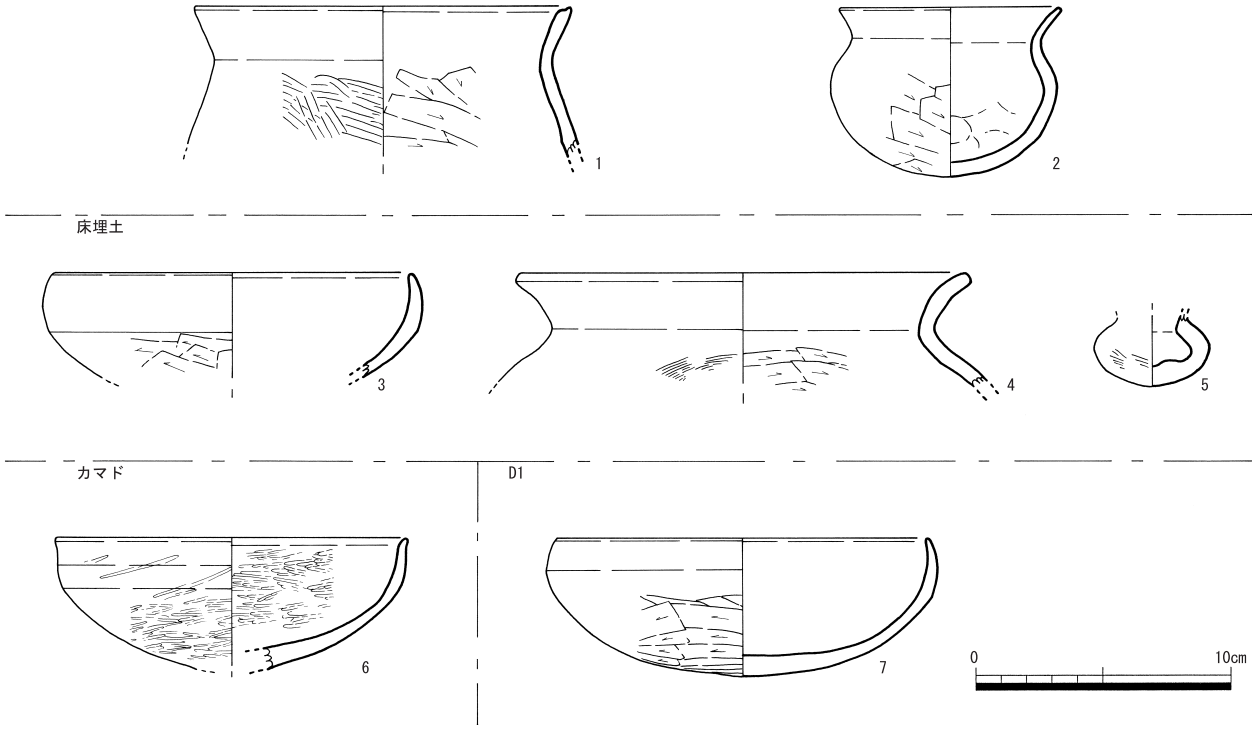


Fig.6　3SI10 出土遺物実測図（1/3）

施す。口縁部はヨコナデにより仕上げる。

甕（4）　口径 18.0 ㎝を復元する破片で、胴部外面はハケ目、内面は横方向のヘラケズリを施す。口縁部はやや外反する「く」字状を呈し、内外面ともヨコナデにより仕上げる。焼成良好で、淡赤褐色を呈する。

土製品

ミニチュア土器(壺)(5)　壺の胴部片である。外面下半は工具痕が看取される。内面はヨコナデを施し、底部中央に粘土溜りが見られる。色調は暗黄灰色を呈する。

3SI10（カマド）（Fig.6、Pla.7）

土師器

坏×高坏（6）　口径 14.0 ㎝を復元する破片で、口縁端部は僅かに外反する。体部下半は手持ちヘラケズリを施し、内外面とも細かいミガキにより仕上げる。焼成良好で、明赤褐色を呈する。

3SI10（D1）（Fig.6、Pla.7）

土師器

坏（7）　完形で、口径 15.0 ㎝、器高 5.4 ㎝を測る。口縁部は緩やかに内湾し、ヨコナデにより仕上げる。体部は丁寧な手持ちヘラケズリを施す。胎土はよく精選されており、焼成良好。色調は淡橙褐色を呈し、外面の一部に黒斑が見られる。

3SI20（Fig.7、Pla.7・8）

土師器

坏（8）　完形で、口径 14.5 ㎝、器高 5.0 ㎝を測る。口縁部を内湾させ、体部外面は手持ちヘラケズリの後ミガキを施す。内面にもミガキの痕跡が見られる。焼成良好で、淡橙褐色を呈する。

坏×高坏（9）　口径 13.0 ㎝を復元する。口縁端部は僅かに外反する。体部外面は手持ちヘラケズリ後ナデで仕上げ、内面にはミガキを施す。胎土はよく精選されており、焼成良好。淡赤褐色を呈する。

甕（10）　口径 18.0 ㎝を復元する破片で、口辺部はヨコナデにより仕上げる。外面はハケ目、内面は不定方向にケズリを施す。色調は、外面淡灰褐色、内面淡灰茶色を呈する。

壺（11・12）　11 は小型の壺で、底部と口辺部を欠く。胴部外面は細かいハケ目の後ナデで仕上げ、頸部付近は内外面ともミガキを施す。内面には一定方向に顕著な指頭痕が看取できる。胴部上半に一箇

所直径 1 ㎝程の孔を穿つ。焼成良好で、淡赤褐色を呈する。12 は短頸壺で、口径 11.0 ㎝を復元する。内外面とも丁寧なミガキを施す。焼成良好で、淡赤褐色を呈する。

器種不明(13)　把手部のみの破片である。基部に僅かにハケ目が看取される。色調は淡橙茶色を呈する。

3SI20（白色粘土）（Fig.7、Pla.8）

土師器

坏(14)　口縁部を欠く破片である。磨耗しているが、外面にはミガキの痕跡が残る。明赤褐色を呈する。

高坏（15）　脚部片で、脚裾径 9.7 ㎝を復元する。外面はやや弱く面取し、ミガキを施す。内面には一定方向に指頭痕が看取される。色調は淡い橙褐色を呈し、外面に一部黒斑が見られる。

3SI20（屋内土坑）（Fig.7、Pla.8）

土師器

坏（16・17）　16 は口径 12.2 ㎝を復元する破片で、口縁部を僅かに内湾させる。内外面ともミガキを施し、内面は黒色化している。胎土はよく精選されており、焼成良好。外面は明赤褐色を呈する。17 は口径 13.4 ㎝を復元する。口縁端部は僅かに外反する。磨耗のため調整は不明であるが、外面下部に僅かにハケ目が残る。

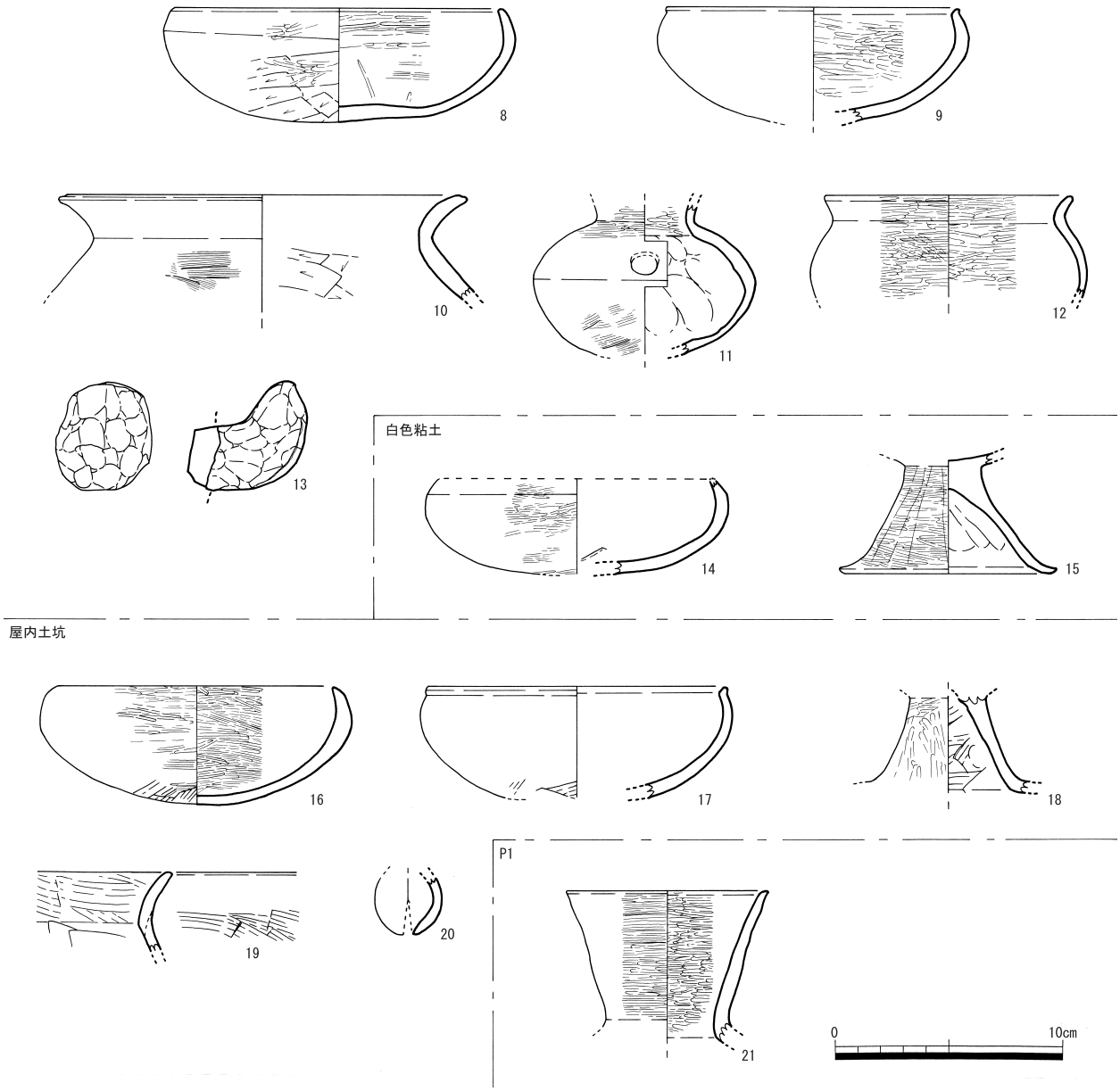


Fig.7　3SI20 出土遺物実測図（1/3）

高坏（18） 脚部片。磨耗しているが、外面は面取りとミガキの痕跡が見られる。内面は不定方向のナデの後工具ナデを施す。色調は淡橙褐色を呈する。
甕（19） 頸部外面と口縁部内面はハケ目、頸部内面はケズリを施す。色調は淡橙色を呈する。
土製品
土鈴（20） ナデにより球面をつくる。内面は未調整。色調は淡黄橙色を呈する。
3SI20（P1）（Fig.7、Pla.8）
土師器
壺（21） 頸部片で、口径9.0㎝を復元する。内外面とも丁寧なミガキを施す。胎土はよく精選されており、焼成良好。色調は淡灰茶色を呈する。
土坑
3SK01（Fig.8、Pla.8・9）
土師器
坏（22・23） 22は口径15.9㎝を復元する。口縁部を僅かに内湾させ、体部外面は手持ちヘラケズリの後工具ナデ。内面は全体にミガキを施す。焼成良好で、色調は外面淡橙色、内面赤橙色を呈する。23は口径13.6㎝を復元し、口縁部は歪みが見られる。磨耗のため調整不明。色調は明赤橙色を呈する。
高坏（24） 脚部片で、脚裾径10.8㎝を測る。磨耗しているが、外面には僅かにミガキの痕跡が残る。内面には一定方向に指頭痕が看取される。色調は明橙褐色を呈する。
甕（25～27） 25は口径16.0㎝を復元する。外面は斜方向のハケ目、内面は横方向にケズリを施す。色調は外面淡橙茶色、内面淡黄灰色を呈し、外面は一部黒斑が見られる。26は口径15.8㎝、器高28.4㎝を測る。外面は工具ナデ、内面は不定方向にケズリを施す。色調は淡黄茶色を呈し、外面の一部に黒斑が見られる。27は口径12.6㎝を復元する破片で、端部が僅かに外反することから、台付甕であると思われる。外面は磨耗のため調整不明。内面は横方向にケズリを施す。
壺（28） 完形で、口径9.5㎝、器高11.0㎝を測る。頸部から口縁部にかけては緩やかに外反する。胴部外面はハケ目、内面はヘラケズリを施す。外面の胴部上半から内面の頸部にかけては丁寧なミガキを施し、黒色化している。焼成良好で、明橙褐色を呈する。
土製品
支脚（29） 裾部片で、底径9.3㎝を復元する。底面は平坦で、全面に植物の繊維圧痕が看取される。また、直径1.6㎝、厚さ0.2㎝程の粘土塊が付着する。色調は淡赤褐色を呈し、底面には黒斑が見られる。
模造鏡（30） 形状は円形を呈し、直径4.8㎝を測る。紐は摘み出した上に補足的に粘土を貼り付け、直径0.2㎝程の孔が貫通する。
馬形（31） 頭部片で、上部は摘み出しによりたてがみと耳を成形。目は棒状工具の刺突により表現する。長さ2.2㎝、幅3.2㎝、重さ6.4gを計測する。
3SK01（Ⅱ層）（Fig.9、Pla.9）
土師器
坏（32） 口径13.0㎝を復元する破片で、口縁端部を僅かに外反させる。外面は手持ちヘラケズリ、内面はナデの後、両面に丁寧なミガキを施す。焼成良好で、暗赤褐色を呈する。
高坏（33・34） 33は坏部片で、口径14.1㎝を測る。口辺部は僅かに内湾する。磨耗のため調整不明。色調は濃橙色を呈する。34は脚部片で、脚裾径10.0㎝を測る。裾端部は僅かに歪む。外面は磨耗のため調整不明。内面は工具痕が看取される。色調は明橙茶色を呈する。
甕（35） 口径13.6㎝を復元する。口辺部を外反させ、ヨコナデにより仕上げる。胴部外面は磨耗のため調整不明。内面は横方向にケズリを施す。
3SK01（Ⅲ層）（Fig.9、Pla.10）
土師器
坏（36・37） 36は土坑底面に置かれた状態で出土した。完形で、口径15.3㎝、器高5.8㎝を測る。体部外面は手持ちヘラケズリを施し、口縁部は僅かに内湾する。内面には指頭痕が残る。色調は濃橙茶

色を呈する。37 は口径 15.4 ㎝を復元する破片で、口縁部は僅かに内湾する。磨耗しているが、体部外面には手持ちヘラケズリの痕跡が看取される。焼成良好で、淡橙茶色を呈する。

高坏（38） 36 の坏に被さった状態で出土した。口縁部は内湾し、口径 13.5 ㎝を測る。磨耗のため調整は不明。色調は濃橙茶色を呈する。

甕（39 ～ 42） 39 は口径 19.2 ㎝を復元する。胴部外面は横方向のハケ目、内面はヘラケズリを施す。色調は淡灰茶色を呈し、内外面ともに薄い黒斑が見られる。40 は台付甕の底部片で、底径 6.5 ㎝を測る。内外面とも顕著な指頭痕が残る。外面は一部黒斑が見られる。41 は口径 16.1 ㎝を復元する。頸部は直立し、口辺部が外反する。胴部外面はハケ目、内面はケズリを施す。淡橙茶色を呈し、外面には黒斑が見られる。42 は口径 15.4 ㎝を復元する。胴部外面はハケ目、内面はヘラケズリを施す。淡橙茶色を呈し、外面は広範囲に黒斑が見られる。

壺（43・44） 43 は小型で、口径 7.6 ㎝を復元する。短頸で、口縁部は外反する。内面の頸部から外

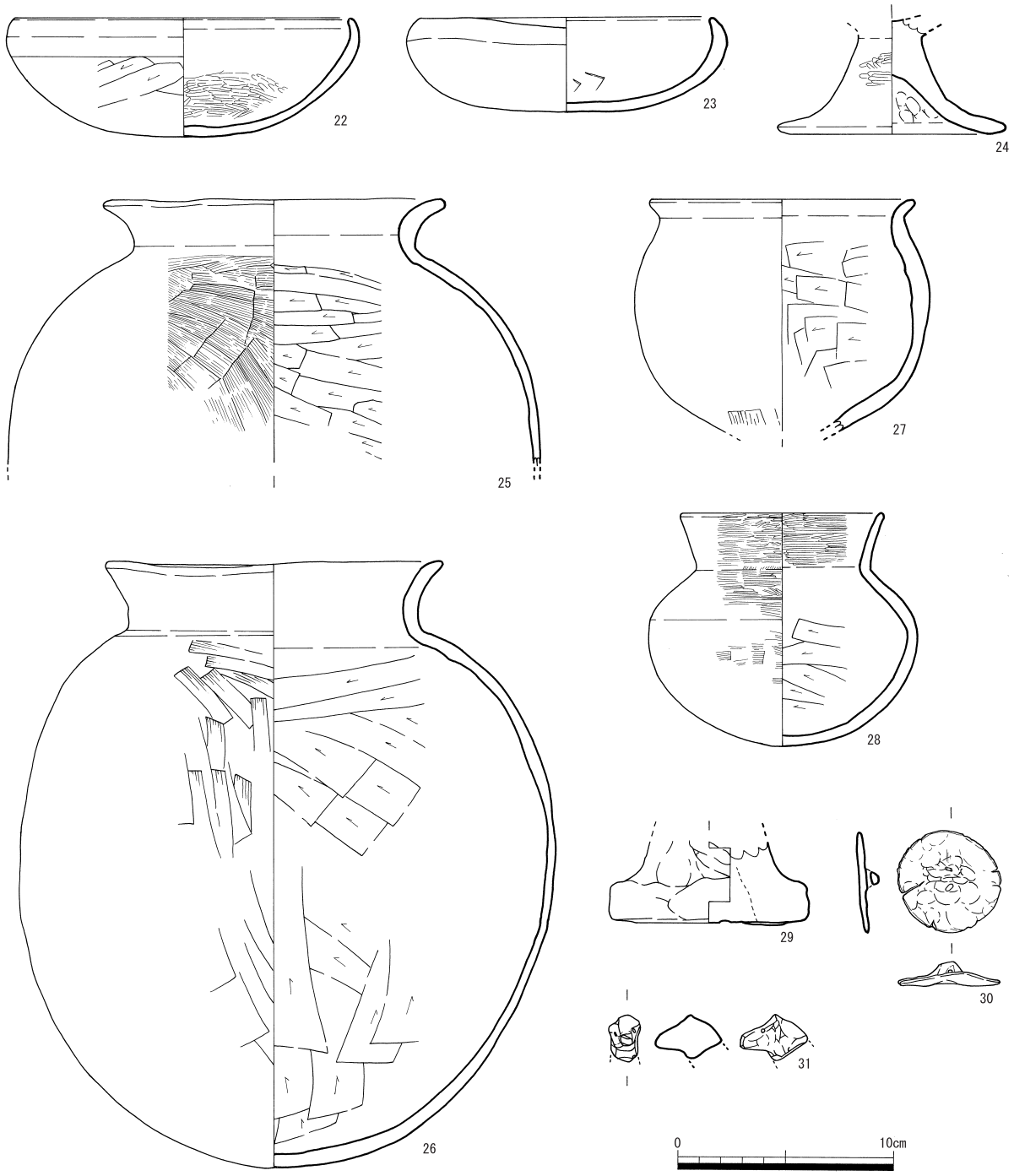


Fig.8　3SK01 出土遺物実測図①（1/3）

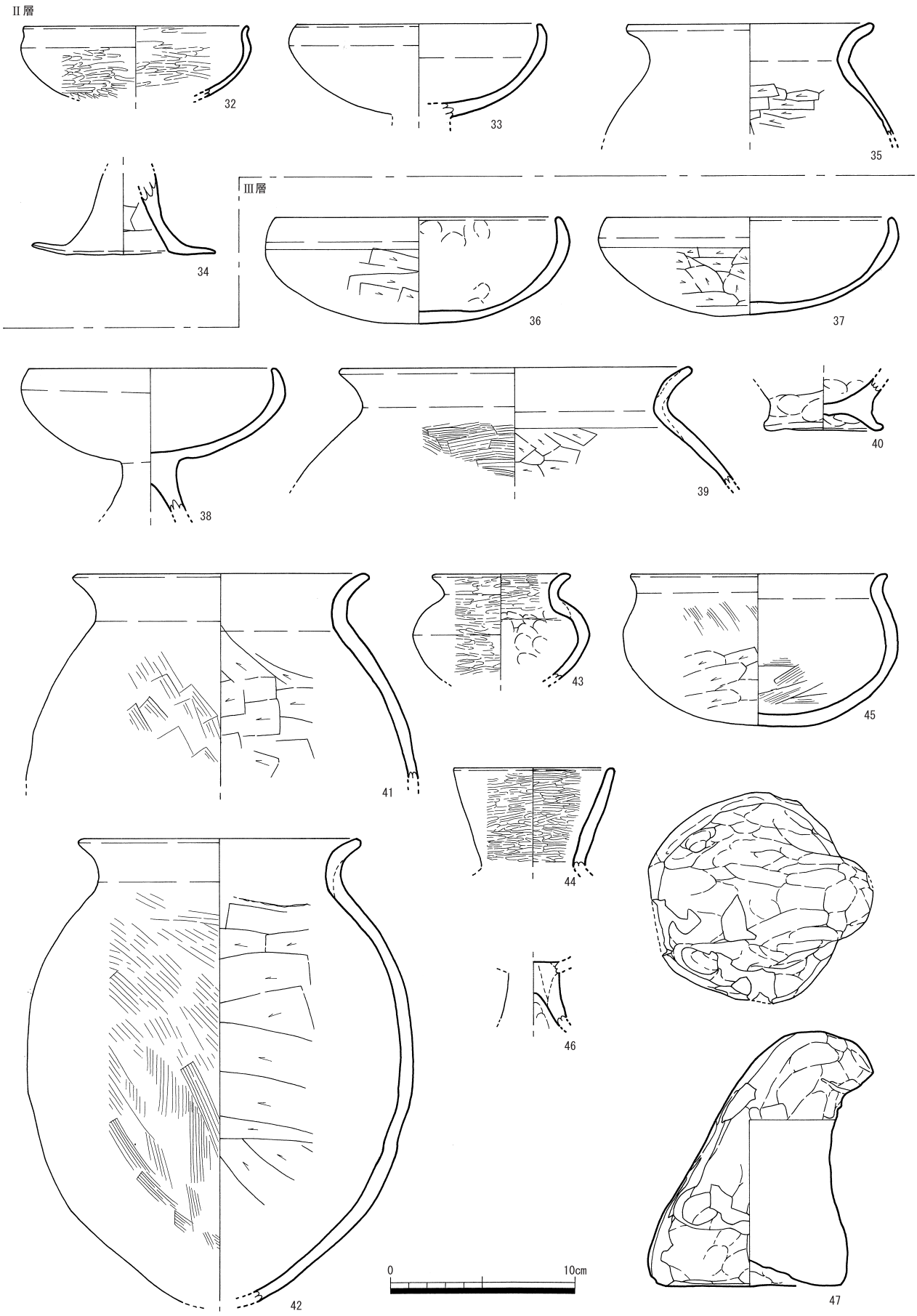


Fig.9　3SK01 出土遺物実測図②（1/3）

面にかけて丁寧なミガキを施す。焼成良好で、濃橙茶色を呈する。44 は口径 8.8cm を復元する。内外面とも丁寧なミガキを施す。色調は明橙茶色を呈し、外面の一部に黒斑が見られる。
鉢（45） 完形で、口径 14.0 ㎝、器高 8.3 ㎝を測る。外面の体部下半はヘラケズリを施す。色調は明橙茶色を呈する。
土製品
ミニチュア土器（高坏）（46） 脚部片で、磨耗のため調整は不明。内面に指頭痕が看取される。色調は濃橙茶色を呈する。
支脚（47） 完形で、断面は嘴状を呈する。底径 10.6 ㎝、器高 13.8 ㎝を測る。底面は丸みを帯びた五角形を呈し、上げ底となる。上部から背面にかけて面取りし、基部は両側から直径 1.8 ㎝程の貫通しない孔を穿つ。

（4） 小結

今回の調査で検出された主な遺構は、2 軒の竪穴住居と土坑である。以下に、それぞれの遺構について得られた成果を概観する。

・竪穴住居

検出された 2 軒の住居 3SI10 と 3SI20 はかなり近接しているため、同時に営まれたのではなく、時期差があると考えられる。しかし、出土遺物はほとんど時期差がなく、遺構の切り合いもないため、先後関係は不明である。時期を判断する遺物としては、口縁端部を外反させる坏、短脚で坏部の口辺部を内湾させるタイプの高坏があり、大まかには、5 世紀後半～ 6 世紀前半の時期が想定される。この時期は、周辺では蔵数立野遺跡 SI01【註 1】や蔵数森ノ木遺跡Ｘ期【註 2】の集落に相当する。

3SI10 は西壁中央で竈が検出された。削平によって上部構造は失われているが、両袖の間には上面を白色粘土で覆った坏を埋納した小土坑が検出された。土坑は火床を切り込んでいることから、竈の廃絶後の祭祀行為と考えられる。民俗事例では、竈神は晦日に天へ昇って家人の罪を報告すると考えられている。粘土は竈神を「封じる」意味であろうか。

・土坑

3SK01 では、坏や壺などの完形品が多く出土している。これらの遺物は、先述の 2 軒の住居の出土遺物とほぼ同じ特徴を示す。このため、遺構の先後関係はやはり不明である。

遺構埋土中からは、馬形土製品や土製模造鏡などの遺物が出土した。馬形土製品は、南筑後地域で初の出土である。また、掲載した 2 点の支脚の他に、底面からもう 1 点完形の支脚が出土している。これは、過度の被熱により脆くなっており、取り上げの際に分解してしまったものである。こうした遺物の内容から、3SK01 は何らかの祭祀に関連した遺構であると思われる。竈廃絶に伴う祭祀であったとも考えられるが、ここでは可能性を指摘するに止めたい。

【註】

1. 上村英士『蔵数立野遺跡』筑後市文化財調査報告書第 81 集　筑後市教育委員会 2007

2. 佐々木隆彦 編『蔵数遺跡群 - 森ノ木遺跡の調査 - 』筑後市文化財調査報告書第 6 集　筑後市教育委員会 1990

S-番号	遺構番号	性　格	時期	遺構の先後関係(古→新)
1	3SK01	土坑	古墳	
2	3SK02	土坑	古墳	3SK02→3SI20
3	3SP03	ピット	古墳	
4	1SX04		古墳？	
10	1SI10	竪穴住居	古墳	
20	1SI20	竪穴住居	古墳	

Tab.1　遺構番号台帳

S-1	
土師器	坏、高坏、甕、壺、片
土製品	支脚、土製模造鏡、馬形
S-1(Ⅰ層)	
土師器	坏、甕、壺、片
S-1(Ⅱ層)	
土師器	坏、高坏、甕、壺、片
S-1(Ⅲ層)	
土師器	坏、高坏、甕、壺、片
土製品	ミニチュア(器台)
S-2	
土師器	片
S-3	
土師器	片
S-4	
土師器	片
その他	黒曜石
S-10	
土師器	甕、壺、器台、片
S-10(竈)	
土師器	坏、甕
その他	焼土塊

S-10(竈Ⅱ層)	
土師器	甕、器台、片
S-10(竈Ⅲ層)	
土師器	片
S-10(竈周辺)	
土師器	片
S-10(D1)	
土師器	坏
S-10(P5)	
土師器	片
S-10(床埋土)	
土師器	坏、壺、片
土製品	ミニチュア(壺)
S-20	
土師器	坏、甕、壺、把手
S-20(屋内土坑)	
土師器	坏、高坏、甕、片
土製品	土鈴
S-20(白色粘土)	
土師器	坏、高坏
S-20(白色粘土直下)	
土師器	片

S-20(床埋土)	
土師器	片
S-20(P1)	
土師器	器台
S-20(P2)	
土師器	片
S-20(P3)	
土師器	片
S-20(床下土坑)	
土師器	壺
遺構検出面	
土師器	坏、壺、片
磁器	白磁片
表土	
土師器	壺、片
カクラン	
土師器	片
磁器	白磁片
その他	炭

Tab.2　出土遺物一覧表

○→復元値・△→現存値

Fig.-No.	遺構番号	R-番号	遺物名	器種名	口径(cm)		器高(cm)		底径(cm)		長さ(cm)		幅(cm)		厚さ(cm)		残　存	備　考
6 － 1	3SI10	2	土師器	甕	○	15.00	△	5.90									口縁～胴部1/4	
6 － 2	3SI10	1	土師器	壺		8.80		6.70									口縁部1/2欠損	
6 － 3	3SI10 床面	1	土師器	坏	○	14.00	△	4.15									口縁～体部1/6	
6 － 4	3SI10 床面	2	土師器	甕	○	18.00	△	4.55									口縁～胴部1/6	
6 － 5	3SI10 床面	3	土製品	ミニチュア(壺)			△	2.80									体部～底部1/2	
6 － 6	3SI10 カマド	1	土師器	坏×高坏	○	14.00	△	5.20									口縁～体部1/4	
6 － 7	3SI10 D1	1	土師器	坏		15.00		5.40									完形	黒斑あり
7 － 8	3SI20	1	土師器	坏		14.50		5.00									完形	
7 － 9	3SI20	2	土師器	坏×高坏	○	13.00	△	5.05									口縁～体部1/3	
7 － 10	3SI20	5	土師器	甕	○	18.00	△	4.60									口縁～胴部1/3	
7 － 11	3SI20	3	土師器	壺			△	6.60									頸部～体部2/3	
7 － 12	3SI20	4	土師器	壺	○	11.00	△	4.50									口縁～体部1/4	
7 － 13	3SI20	6	土師器	把手							△	4.80	△	4.25			把手のみ	
7 － 14	3SI20 白色粘土	1	土師器	坏			△	4.15									口縁～体部1/4	
7 － 15	3SI20 白色粘土	2	土師器	高坏			△	5.35		9.70							脚部のみ	
7 － 16	3SI20 屋内土坑	1	土師器	坏	○	12.20	△	5.20									口縁～底部1/3	
7 － 17	3SI20 屋内土坑	2	土師器	坏	○	13.40	△	4.90									口縁～体部1/4	
7 － 18	3SI20 屋内土坑	3	土師器	高坏			△	4.30									脚部1/2	
7 － 19	3SI20 屋内土坑	4	土師器	甕			△	3.50									口縁部破片	
7 － 20	3SI20 屋内土坑	5	土製品	土鈴			△	2.50									1/3	
7 － 21	3SI20 P1	1	土師器	壺	○	9.00	△	6.70									口縁～頸部1/2	
8 － 22	3SK01	1	土師器	坏	○	15.90		5.60									口縁～底部1/2	
8 － 23	3SK01	2	土師器	坏	○	13.60		4.45									口縁～底部1/2	
8 － 24	3SK01	3	土師器	高坏			△	5.35		10.75							脚部のみ	
8 － 25	3SK01	7	土師器	甕	○	16.00	△	12.40									口縁～胴部1/4	
8 － 26	3SK01	6	土師器	甕		15.80		28.40									胴部一部欠損	黒斑あり
8 － 27	3SK01	5	土師器	甕	○	12.55	△	10.80									口縁～胴部1/3	台付甕か？
8 － 28	3SK01	4	土師器	壺		9.50		10.95									完形	
8 － 29	3SK01	8	土製品	支脚			△	3.80	○	9.30							底部2/3	
8 － 30	3SK01	10	土製品	模造鏡								4.80		4.85		1.15	完形	
8 － 31	3SK01	9	土製品	馬形							△	2.20	△	3.15		1.50	頭部のみ	
9 － 32	3SK01 Ⅱ層	1	土師器	坏	○	13.00	△	3.50									口縁～体部1/6	
9 － 33	3SK01 Ⅱ層	2	土師器	高坏		14.05	△	5.30									坏部2/3	
9 － 34	3SK01 Ⅱ層	3	土師器	高坏			△	4.45		10.00							脚部のみ	
9 － 35	3SK01 Ⅱ層	4	土師器	甕	○	13.55	△	5.50									口縁～胴部1/6	
9 － 36	3SK01 Ⅲ層	1	土師器	坏		15.30		5.80									完形	
9 － 37	3SK01 Ⅲ層	2	土師器	坏	○	15.40		5.40									口縁～底部1/3	黒斑あり
9 － 38	3SK01 Ⅲ層	3	土師器	高坏		13.45	△	7.80									坏部のみ	
9 － 39	3SK01 Ⅲ層	7	土師器	甕	○	19.20	△	6.45									口縁～胴部1/6	黒斑あり
9 － 40	3SK01 Ⅲ層	10	土師器	甕			△	2.90		6.50							底部のみ	
9 － 41	3SK01 Ⅲ層	8	土師器	甕		16.05	△	11.10									口縁～胴部1/6	黒斑あり
9 － 42	3SK01 Ⅲ層	9	土師器	甕	○	15.40	△	25.05									口縁～胴部1/3	
9 － 43	3SK01 Ⅲ層	5	土師器	壺	○	7.60	△	5.75									口縁～体部1/2	
9 － 44	3SK01 Ⅲ層	6	土師器	壺	○	8.80	△	5.40									口縁部1/4	
9 － 45	3SK01 Ⅲ層	4	土師器	鉢		14.00		8.25									完形	
9 － 46	3SK01 Ⅲ層	12	土製品	ミニチュア(高坏)			△	3.50									坏身底部～脚部1/2	
9 － 47	3SK01 Ⅲ層	11	土製品	支脚				13.80		10.60							完形	

Tab.3　出土遺物観察表

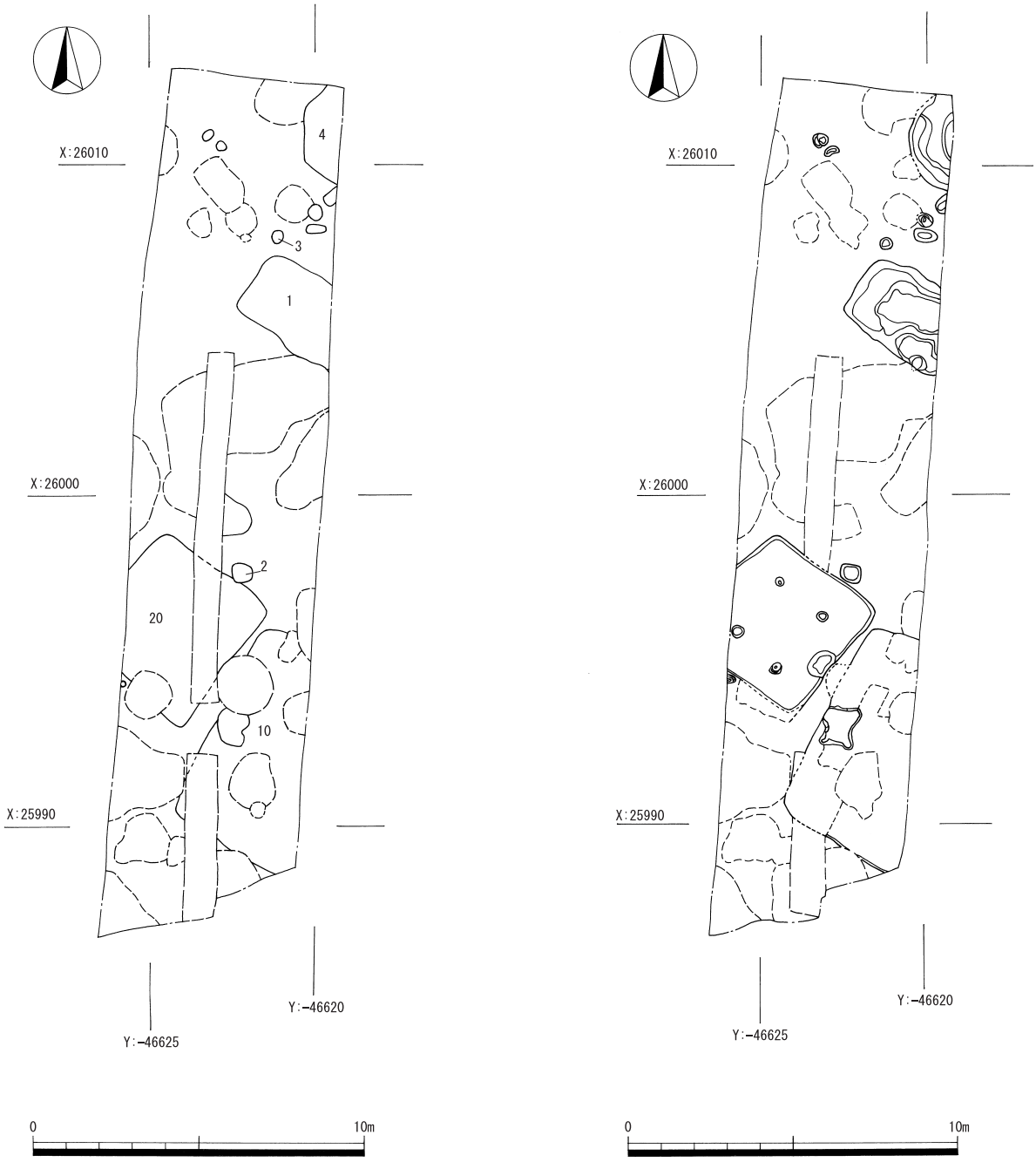
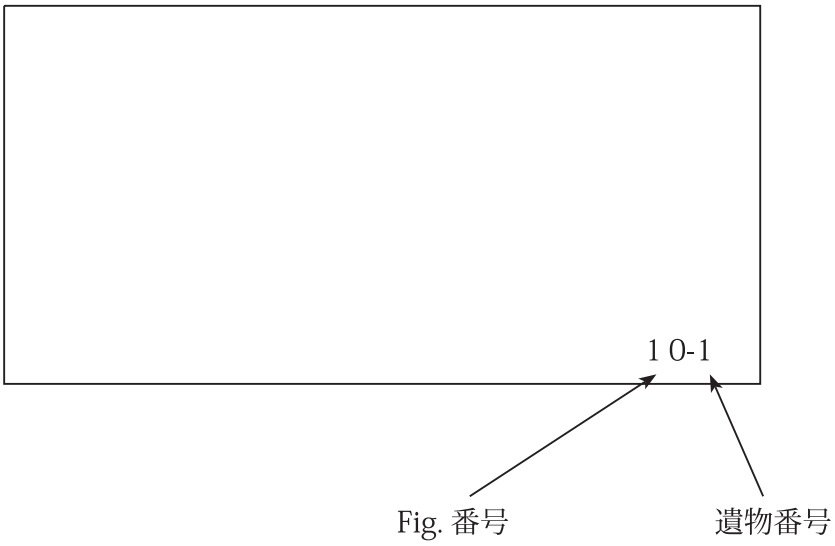


Fig.10　遺構略測図（1/200）・遺構全体実測図（1/200）

PLATE

凡　例

遺物写真右下の番号は、以下のとおりである。



Pla.1 調査区全景（南から）

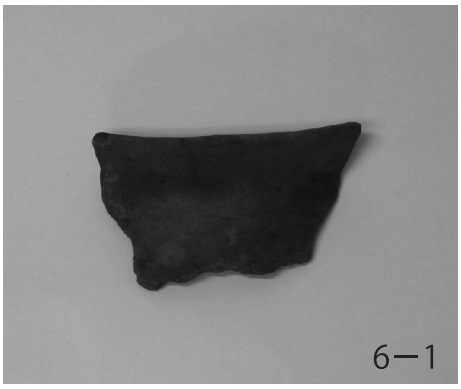
Pla.2 3SI10 竈検出状況（東から）

Pla.3 3SI10 完掘状況（東から）

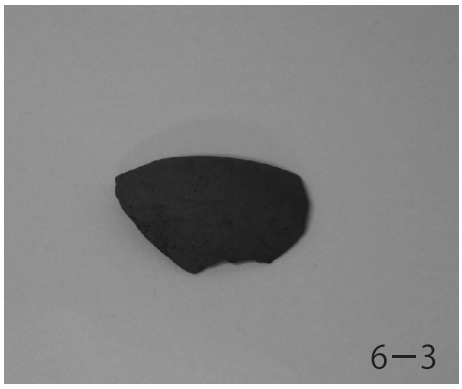
Pla.4 3SI20 完掘状況（西から）

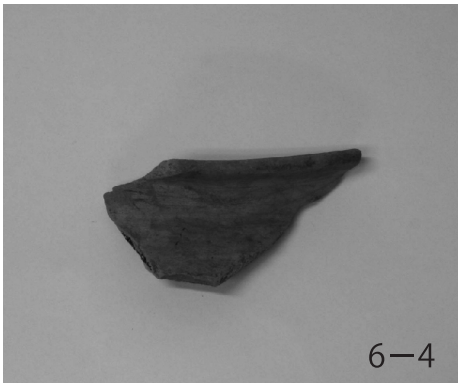
Pla.5 3SK01 遺物出土状況（東から）

Pla.6 3SK01 完掘状況（東から）

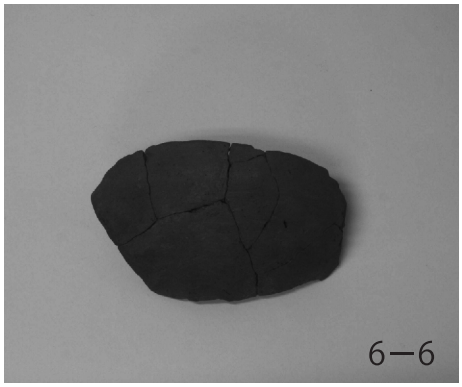

6—1

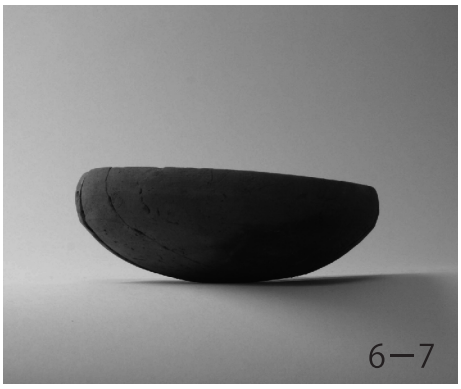
6—2


6—3

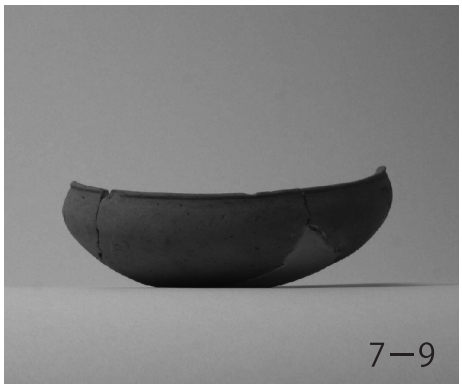

6—4

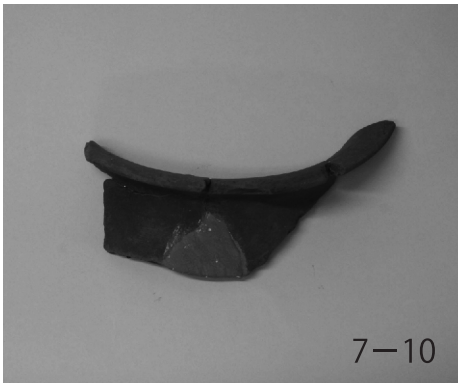
6—5

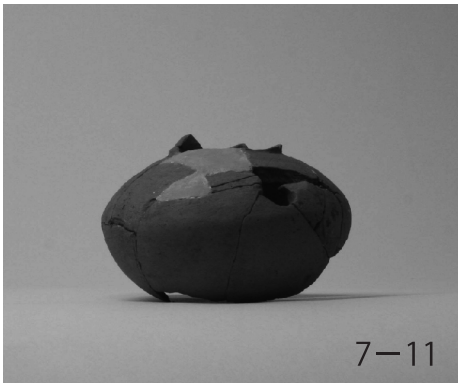

6—6

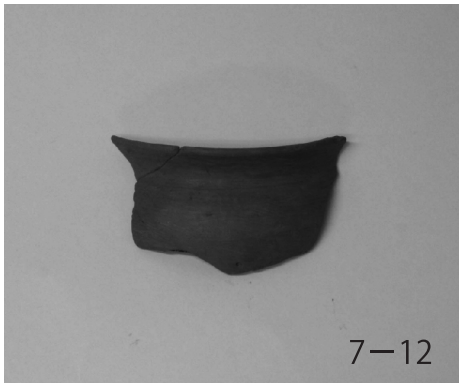

6—7

7—8

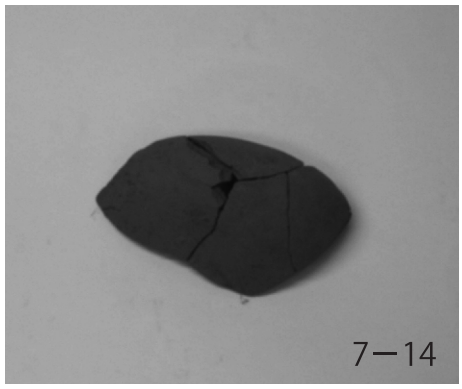

7—9


7—10

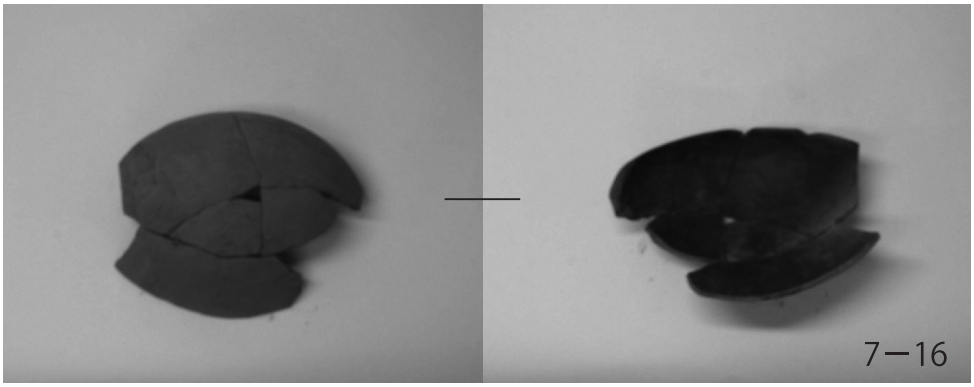

7—11

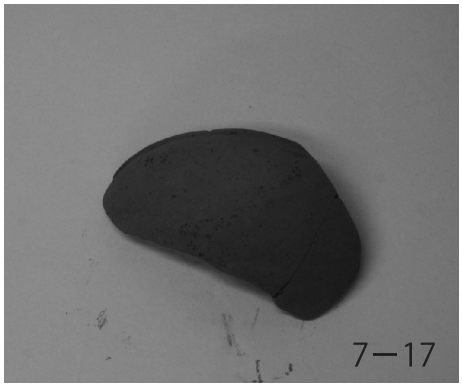

7—12

7—13

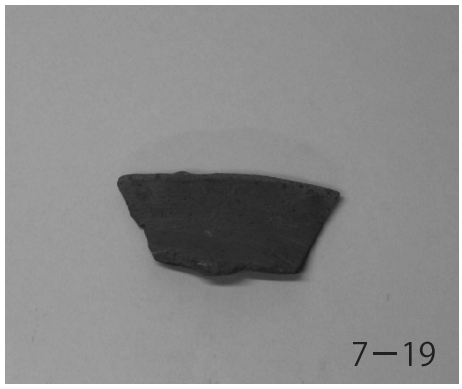

7—14

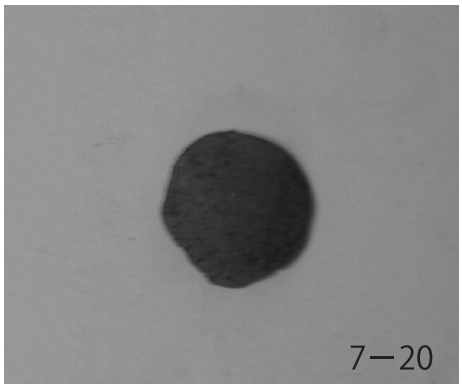
7—15

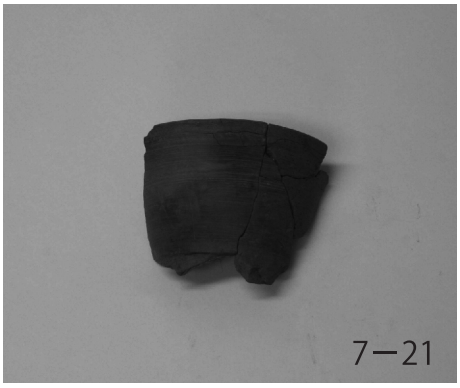

7—16


7—17

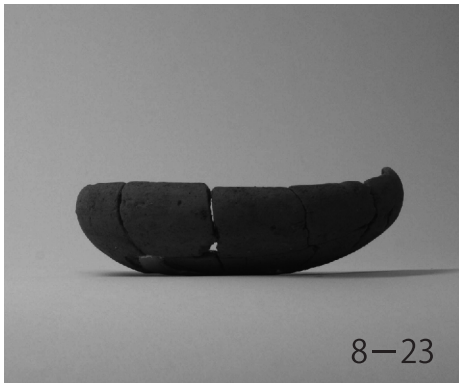
7—18


7—19


7—20


7—21

8—22


8—23

8—24

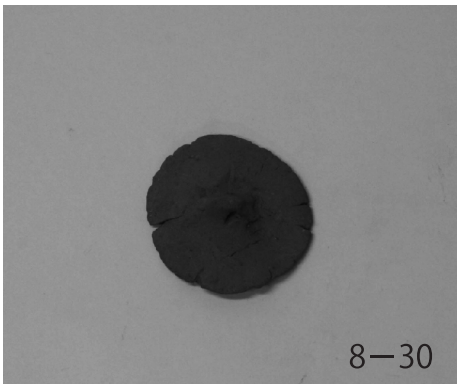
8—25

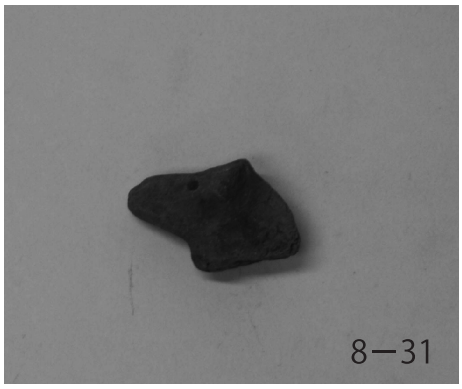
8—26

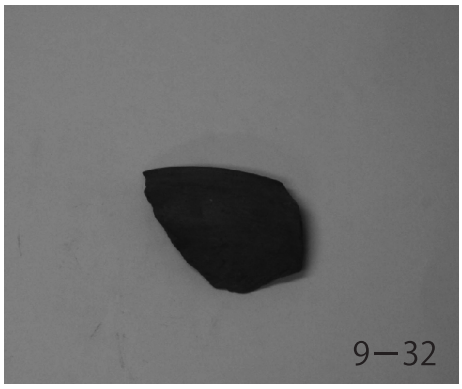
8—27

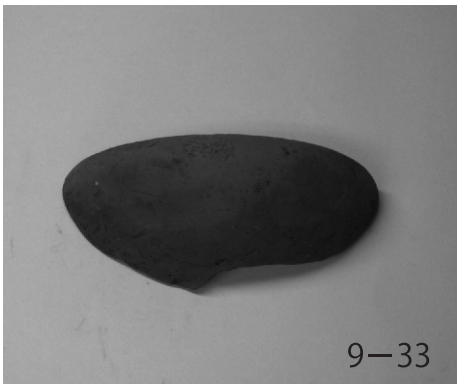
8—28

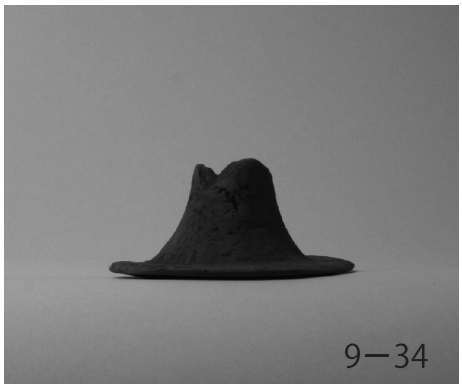
8—29


8—30

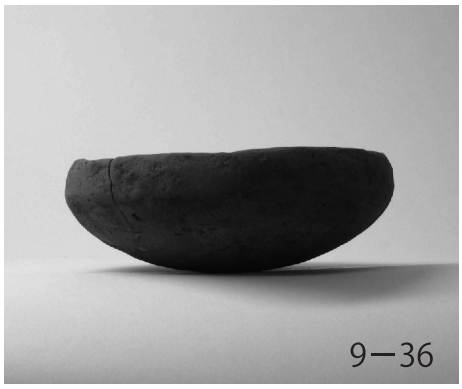

8—31

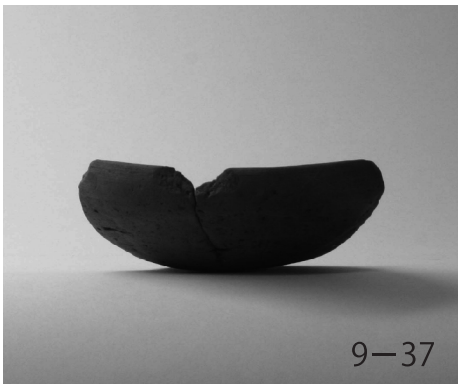

9—32


9—33

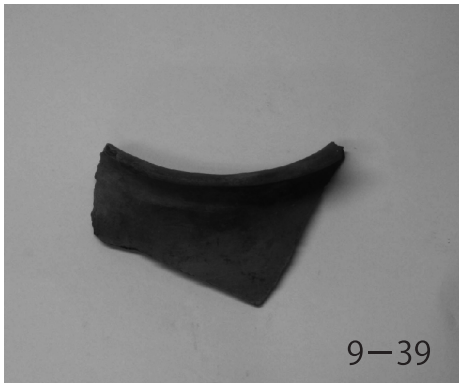

9—34

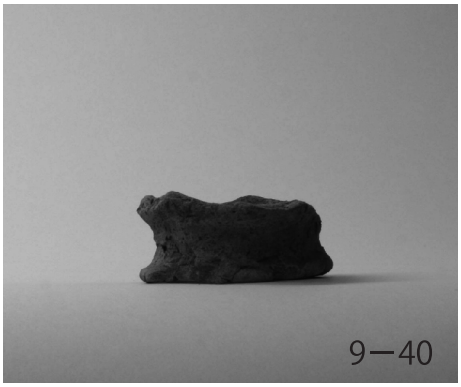
9—35

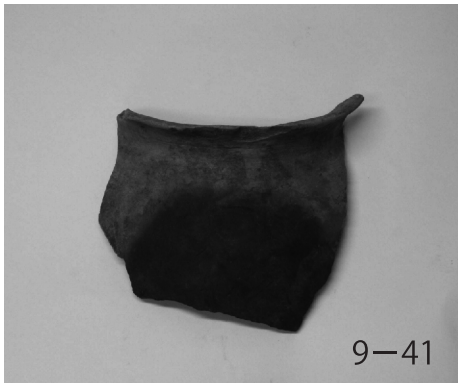

9—36

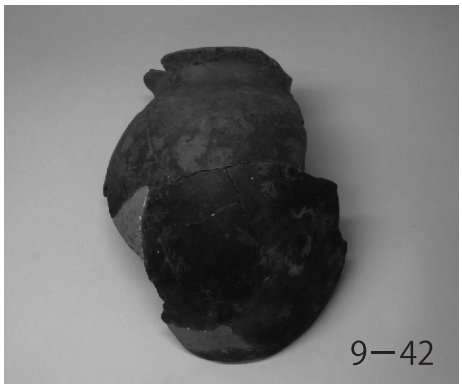

9—37

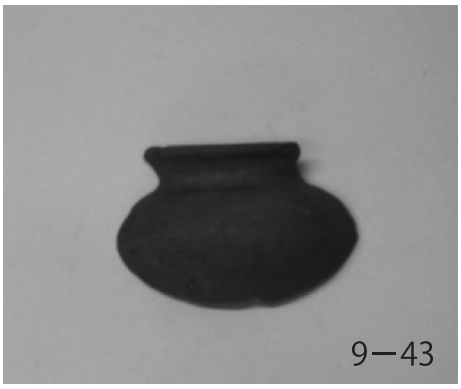
9—38

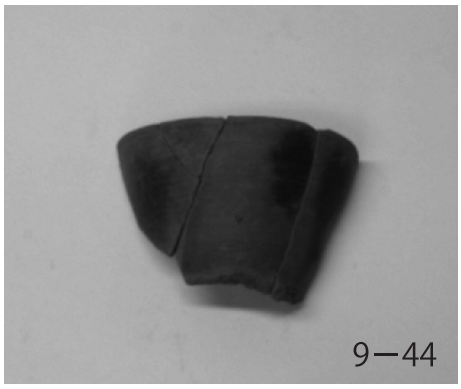

9—39


9—40

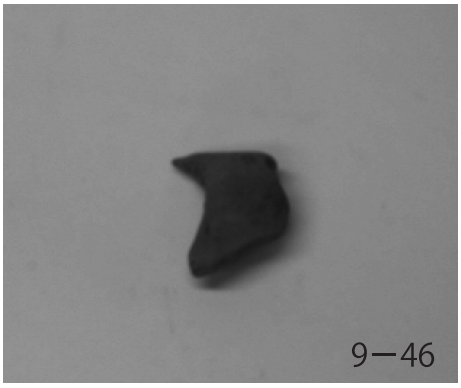

9—41


9—42


9—43


9—44

9—45


9—46

9—47

筑後市文化財調査報告書　第93集

蔵数東野屋敷遺跡

平成22年3月31日

発行　筑後市教育委員会
福岡県筑後市大字山ノ井898
TEL　0942-53-4111

印刷　株式会社　秀明社印刷
大牟田市中白川町3-172
TEL　0944（52）5601

蔵数東野屋敷遺跡

筑後市文化財調査報告書　第93集

2010年（平成22年）

筑後市教育委員会